

議会の今を伝える

2016. 8. 1 No.42

編集：議会だより編集委員会 印刷：有限会社 利根印刷所

発行：沼田市議会議長 星野 稔

〒378-8501 沼田市西倉内町780

TEL:0278-23-2111 FAX:0278-22-6333

沼田市 議会 だより



移転復元建築工事が完了し、8月1日より一般公開された旧沼田貯蓄銀行

6月定例会号

6月定例会の概要

本定例会は、6月14日に招集され、6月23日までの10日間の会期となりました。

付議案件は、市当局から、報告7件、条例6件、予算1件、補正予算5件、人事1件、その他4件、合計24件が提出され、全て原案可決、承認、異議なしとなりました。

また、第六次総合計画に関する調査・研究を行うため、第六次総合計画に関する特別委員会を設置することといたしました。

議会日程表

日	会議	内容
14	本会議	開会 報告 提案理由の説明 質疑・討論・採決
16	本会議	一般質問（4人）
17	本会議	一般質問（4人）
20	本会議	総務文教常任委員会
21	委員会	民生福祉常任委員会
22	委員会	経済建設常任委員会
23	本会議	委員長報告 提案理由の説明 質疑・討論・採決 特別委員会の設置 閉会



昨年の県総合防災訓練

沼田市地域防災計画について

桑原 敏彦 議員

Q1 指定避難所の配置及び規模と備蓄内容についてお伺いします。

A1 沼田地区は10施設で収容可能人員3,220人、利南地区は5施設1,480人、池田地区は3施設740人、薄根地区は5施設980人、川田地区は3施設510人、白沢地区は4施設1,100人、利根地区は25施設2,120人、市合計で55施設、1万150人の収容が可能となっております。

また、備蓄内容につきまして、ペットボトル飲料水、アルファ米、クラッカー、救急箱、

Q2 今後の防災協定の方針についてお伺いします。

A2 災害時に、何がどれだけ必要になるのかは、災害の規模により違いがあるため、なるべく多くの業種の事業者と災害協定を締結していく考えです。

Q3 災害時の通信用等の電源確保の方法についてお伺いします。

A3 災害本部となる市役所におきましては、防災機器専用の「軽油エンジン」による発電機を、また、代替本部となる沼田市保健福祉センター1階には「LPガス」による発電機を設置しており、利南・池田・薄根・川田の4地区公民館には「ガソリンエンジン」によるポータブル発電機を常備し、非常用電源を確保している状況であります。

電源確保ができない状態でも避難所からの情報発信が可能となるため、市といたしましても、可能な限り、多くの指定避難所に施設に設置していく考えです。

Q4 防災の新たな担い手の創出についてお伺いします。

A4 防災に対する新たな発想を持った若者や企業を応援できる体制整備について、今後、研究してまいります。

Q5 「自主防災」を軸とした市内産業の支援についてお伺いします。

A5 市民や企業が己のこととして自主的に防災を考え、結果として「個々の利益」「地域の防災」「雇用による人口増加」「市税の増収」とつながれば、すばらしい相乗効果になるものと考えております。



市民大運動会の様子

まち・ひと・しごと創生総合戦略について
安心安全で機能的なまちづくりについて
生涯スポーツの推進について

中村 浩二 議員

Q1 林業、木材、木製品製造業の振興についてどのように推進するのか伺います。

A1 公共施設等での利用促進や、利用に対しての助成金制度の創設などについて、県や関係団体等と検討・研究を進めてまいりたいと考えております。

Q2 農産物ブランド化・6次産業化の推進についてどのように図るのか伺います。

A2 農業・加工・販売各事業者のネットワーク化促進と新商品開発、販路開拓、加工・販売施設等への支援を行い、6次産業化の推進を図ってまいりたいと

考えております。

Q3 農業後継者・新規就農者の確保育成についてどのように取り組むのか伺います。

A3 資金面や技術面での支援を行うとともに、新規就農者を受け入れる農業者と就農希望者のマッチングも支援するなど、青年の就業意欲の喚起と就業後の定着を図ってまいりたいと考えております。

Q4 真田丸に伴う沼田市のPRを今後どのように行うのか伺います。

A4 従来の歴史関連イベントを継続的に実施することにより、

将来「真田」といえば「上田、松代」と並んで「沼田」とイメージしていただけるよう、全国に向け、引き続き発信してまいりたいと考えております。

Q5 道路橋や道路トンネル等、道路施設の安全管理について確保されているのか伺います。

A5 「沼田市橋梁長寿命化修繕計画」と合わせ、修繕・補修工事を実施していくことで、道路施設の安全性、健全性の確保を図っているとあります。

Q6 (仮称)利南運動広場の進捗状況について伺います。

A6 平成18年度に実施した野球

場とテニスコートの基本設計の見直しを平成27年度から行っており、設計の最終段階に入っているところであります。

Q7 サッカー専用のグラウンドがないため大会等が制限されることもありますので、サッカー場の建設が必要と考えますが、お考えを伺います。

A7 サッカーの専用グラウンドとなりますと、相当の面積が必要になりますが、その必要性は十分認識しておりますので、財政状況も勘案しながら、今後の施設整備の中で検討してまいりたいと考えております。



真田丸展用バス専用駐車場

**中心市街地活性化法
に基づく基本計画
利根沼田の高校再編
学校給食の米飯につ
いて**

金子 浩隆 議員



収穫を迎える水田

**防災対策について
TPPと地域経済
について
利根商業高等学校
の改革基本構想に
ついて**

大東 宣之 議員

Q1 「やさしさの核」に予定していた施設がグリーンベル21に整備される「グリーンベル21新庁舎等整備基本設計」がまとめ

A1 「やさしさの核」に予定していた施設がグリーンベル21に整備される「グリーンベル21新庁舎等整備基本設計」がまとめられ、見直しを進めています。また、市内組織である副市長を本部長とした「街なか再生実

Q2 深刻な人口減少、少子化が現実のものとなり、利根沼田の高校の適正規模がいよいよ維持

A2 高校の再編整備は大きな課題と考えています。市内中学校3年生の生徒数は、平成28年度479人から平成36年度351人に26・7%減少します。過去に開催された「利根沼田地区高等学校の在り方に関する懇談会」等で検討された内容を踏まえ、現在の子どもたちにとって、こういった高校が魅力ある学校かなど、十分に協議を重ね、地域の理解とコンセンサスを

Q3 学校給食の「地元産米を使った炊き立てのご飯」実現に向けた新教育長の考えを伺います。

A3 「地元産のお米を使った炊き立てのご飯」の提供は、地産地消や食育の観点から、児童・生徒が郷土を理解し、郷土を愛する心の育成につながり、大変望ましいと考えています。炊飯業務の委託先である県学校給食会が地元産のお米を使って、安全に提供できるかどうか、また、民間業者への委託も含めて検討し、さらに情報収集に努めていきます。

Q1 防災対策において、大地震や土砂災害等の大規模災害における避難誘導、食料・水等の確保、避難所生活の確保をどのように進めるのか伺います。
A1 日頃の避難経路の確認や、要支援者の避難などの訓練が有効であることから、自主防災組織の活動支援として防災専門官の派遣などを行っています。市内10箇所に備蓄してあるもので不足が生じた場合には、災害協定を締結している事業者等に、協力を要請して対処することとなります。

Q2 地震発生時における火災への対応はどのようにされるのか伺います。
A2 利根沼田の全市町村で消防相互応援協定を締結しており、各首長の応援要請により、相互応援体制が構築されており、互に互に、さらに枠を広げた相互応援協定も、研究・協議していきたいと考えております。

Q4 利根商業高等学校の改革基本構想について、今後どのように取り組まれるのか伺います。
A4 改革に伴う施設整備については、できるだけ早く完了させたいと考えています。また、市内組織である副市長を本部長とした「街なか再生実

Q5 利根商業高等学校の改革基本構想による財政負担はどのようになるのか伺います。
A5 みなかみ町では、学校組合構成市町村に対しても、一定程度の財政負担をお願いしたい旨の意向を持っており、事務レベルでの協議を行っているところ

Q3 学校給食の「地元産米を使った炊き立てのご飯」実現に向けた新教育長の考えを伺います。
A3 「地元産のお米を使った炊き立てのご飯」の提供は、地産地消や食育の観点から、児童・生徒が郷土を理解し、郷土を愛する心の育成につながり、大変望ましいと考えています。炊飯業務の委託先である県学校給食会が地元産のお米を使って、安全に提供できるかどうか、また、民間業者への委託も含めて検討し、さらに情報収集に努めていきます。



環境フォーラムぬまたの様子

真に持続可能なまちづくりに向けて、ゼロ・ウェイスト（ごみゼロ）宣言自治体をめざす
利根東部衛生施設組合のごみ処理経費

井之川 博幸 議員



新バス路線 [沼須線]

交通政策と福祉のまちづくりについて
いわゆる「買い物弱者」対策について
福祉政策としての交通弱者対策について

高柳 勝巳 議員

Q1 最近10年間のごみ減少率と現在のリサイクル率を伺います。
A1 最近10年間のごみ減少率は18%減です。現在のリサイクル率は19.2%となっております。
Q2 鹿児島県志布志市は、リサイクル率が75.4%、廃棄物処理費用が全国の平均の半分で、年間2億7千万円節約です。本市における廃棄物処理にかかる年間経費の総額と人口一人当たりの費用を伺います。
A2 年間経費は6億8千万円となり、一人当たりの費用は、約1万3千円です。

Q3 本庁及び白沢町の年間焼却経費額と、利根町での一人当りの金額を伺います。
A3 沼田市外二箇村清掃施設組合への負担金1億8,135万円、一人当たり3,910円で、利根町では利根東部衛生組合への負担金2億2,763万円、一人当たり52,925円です。
Q4 ゼロ・ウェイスト（ごみゼロ）についての考えを伺います。
A4 非常に難しい問題であると認識しております。現実的には、広域化の研究を進めるとともに、さらなる分別の徹底とモラルの向上を啓発し、

ごみの減量化と、分別リサイクルの理解を深めていくことが重要であると考えております。
Q5 市全体で堆肥化を進めるといふ生ごみの完全堆肥化の実施についての考えを伺います。
A5 完全堆肥化は、ごみの減量化として有効な手立てと考えますが、今後の検討課題です。
Q6 リサイクル率向上に向けての考えを伺います。
A6 家庭ごみの分別の徹底、モラルの向上に加え、事業系一般廃棄物の分別推進や、再資源化を推進し、市民・事業所・市が連携し、循環型社会の構築をめ

ざしてまいります。
Q7 ゼロ・ウェイスト宣言に向け行政と市民との共同推進組織の設置について伺います。
A7 沼田市環境保健協議会が設置され、各支部長を中心に、区と連携を図りながら、さらにも含めた連携を強化し、ごみ減量化及び再資源化に取り組んでまいります。
Q8 佐田町に計画されている民間の一般廃棄物最終処分場へのお考えについて伺います。
A8 地元合意なしには建設は不可能であると考えております。

Q1 既存の路線バスの利用状況と収支状況と課題を伺います。
A1 本市が運行委託している10路線の利用状況は減少傾向ですが、ここ3年の推移を見ると増加に転じている路線もあり、3路線が増加となっております。また、沼須線は、最も利用が多い路線となりました。反面、利用減少が続く路線としては、6路線となっております。収支状況では、経常収入が1,281万3,771円、経常費用が7,719万9,817円ですが、過疎債や県補助等を活用して、平成27年度実績で約4、

400万円を一般財源で負担しています。路線バスは、交通弱者にとつて欠かせない交通手段と考えますので、様々な利用促進を図りながら路線の維持に努めていきたいと考えています。
Q2 移動困難者への移動販売や買い物代行、通信販売などの支援策の把握や行政として支援の検討内容を伺います。
A2 平成22年には、中の会商店街、下之町商店街による出張商店街、買い物代行などの活動が行われた経過があり、そのサービスの一部は現在も継続されて

いると伺っております。また、高齢者在宅福祉サービスとして買い物代行サービス等を実施しています。
Q3 通院・通所の方々の状況の把握と支援策の検討状況を伺います。
A3 公共交通機関を利用して障がい者通所授産施設に繋がっている方に対しては、月額5,000円を上限とした通所費助成を実施しているところです。また、高齢者の通院手段の把握及び、移動手段についての相談に応じ、支援やサービス等の案内を実施しており、在宅介護

支援センターでは、日常的な相談業務において生活や身体的な状況把握を行い、地域包括支援センター等の関係機関と連携し、支援を行っています。
Q4 通勤・通学対策としての路線バスに変わる支援策の検討状況を伺います。
A4 現在、路線バス以外での支援策の検討はしていません。本市の交通インフラでは、路線バスでは対応できないこともありますが、時代の変化にも留意しながら、長期的な観点で、市民の足を守る方策を研究していきたいと考えています。



ふるさと納税について
教育における貧困対策について
冬季のスポーツ振興
家庭生活教育について

高山 敏也 議員



防災対策・自主防災
組織の立ち上げ
子育て支援について
環境問題・ゴミの不
法投棄について

星野 妙子 議員

Q2 当市の教育現場における貧困の現状と対策について、就学援助、学習環境、高校卒業後の進学状況、高校時の支援、貧困世帯に対する市の学習支援の試行、フードバンクの必要性について伺います。

Q1 ふるさと納税による支援事業として新たな育英基金の創設と、沼田城復元を追加することについて伺います。
A1 市奨学基金の拡充や新たな基金の創設について前向きに検討します。沼田城復元は支援事業の「教育・文化づくり」に該当し、ふるさと納税を周知する中でアピールしていきます。

Q3 小中学校のスキー教室の実施状況、小中学生のスキー・ス

A2 要保護（生活保護家庭）児童生徒数5名、準要保護（生活保護家庭に準ずる生活程度）同231名、全体の6・2%、わずかな増加傾向にあり、それらの児童生徒を対象に学用品費や給食費等の援助を実施しています。
小中学校では年度当初に生活環境や学習環境の状況把握をし、準要保護認定には民生委員児童委員の家庭訪問を実施、学校と地域の連携で子どもを見守る体制づくりに努めていきます。

Q4 安全で安心して遊べる子どもたちの遊び場の環境整備と全天候型施設の児童館設置に対する市長の見解を伺います。

Q5 経済的に困難な環境にある子どもたちの制服や運動着のリユース（再利用）バンクについて、沼田市における積極的な導入について伺います。
態調査を行うので、県の動向を注視していきます。
貧困家庭の子どもの学習支援の試行は、今年度から実施する事業で要保護家庭の中学生を対象とし、家庭教育アドバイザーを家庭に派遣し、学習習慣の定着、家庭学習環境の改善等を促し、貧困の連鎖の防止を目的として行うものです。
フードバンクは、貧困対策に有効と考えるが、提供先、保管場所、運搬等の課題、支援組織の発掘など研究していく考えです。

Q4 中学校における将来の家庭生活の設計や子育てに対する教育について伺います。
A4 道徳、社会科、家庭科等で、家庭や家族の大切さ、家族形態の変化、家族の役割、個人の尊厳、男女の平等などについて学習しています。

A3 平成27年度スキー教室実施校は前年度より1校増えて7校、小中学生のスキー歴は55%。スキー教室は、地域特性を生かした価値ある活動であることを再度学校へ伝えていく考えです。

Q2 自主防災組織の役割体制について伺います。
A1 設置予定地区へ組織活動や役員構成・班編制の例を説明し支援しているところであり、防災マップは各家庭や自主防災組織の図上訓練における避難所、避難経路の確認に活用していただきたい。

A3 「災害に適切に対応する能力の基礎を培う」を目指し教育活動全体を通じて防災教育を推進しています。幼稚園・小中学校の合同訓練の実施など、より実効性のある取り組みの工夫や実情に合ったマニュアルの見直

A4 地域特性やニーズを考慮し地域間での配置バランスを踏まえた整備を進めてまいります。児童館については、保健福祉センターに「子ども広場」を現在設置しております。
Q5 経済的に困難な環境にある子どもたちの制服や運動着のリユース（再利用）バンクについて、沼田市における積極的な導入について伺います。

A6 不法投棄は、所有者、管理者が自らの責任で処理するものですが、対応できない場合や著しい生活環境の悪化と放置に対しては市と区の連携で助成する方法等を検討しています。

Q1 各地域で自主防災組織を立ち上げ、軌道にのせるまでには多大な労力が必要であり、沼田市からどのような支援策を考えているのか、また、今年各家庭へ配布された防災マップ活用に対する支援と指導について伺います。
A2 自主防災組織は自分達の地域を自主的に守る組織ですから、年齢や性別の区別はありません。
Q3 命の大切さを認識し自分自身で判断し避難行動できる子を育む防災教育について伺います。

Q4 安全で安心して遊べる子どもたちの遊び場の環境整備と全天候型施設の児童館設置に対する市長の見解を伺います。
A4 地域特性やニーズを考慮し地域間での配置バランスを踏まえた整備を進めてまいります。児童館については、保健福祉センターに「子ども広場」を現在設置しております。

A5 貧困対策として、成長著しい子どもの制服・運動着の再利用は資源の有効活用と保護者の経済的負担軽減に大切なことと認識しています。関係部局と連携しながら研究してまいります。
Q6 ゴミの不法投棄は環境問題、衛生問題から早急な対応と撤去を要望します。沼田市の対応について伺います。

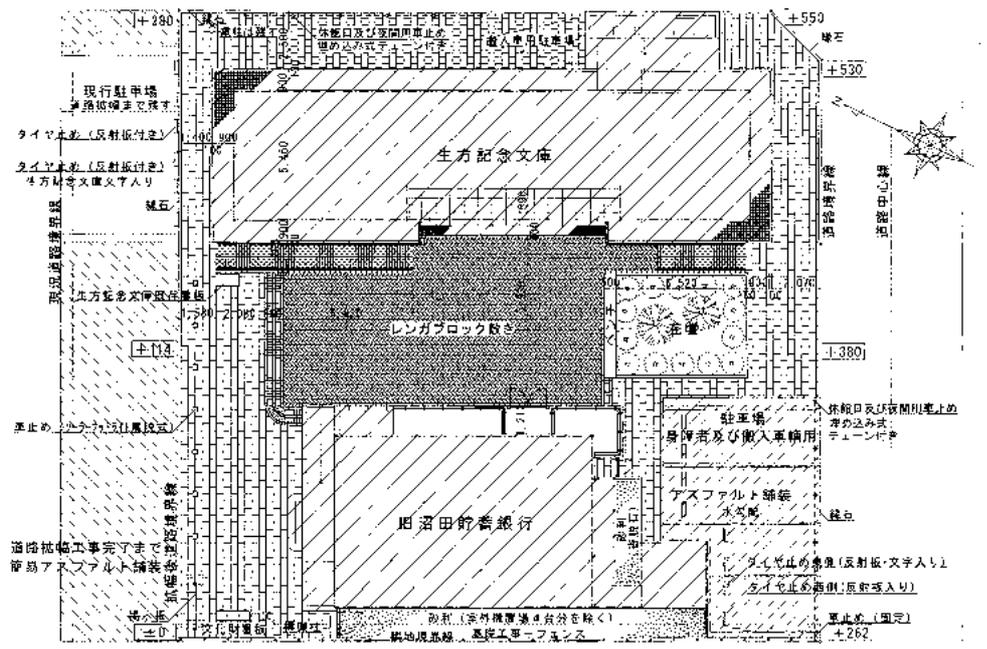
A6 不法投棄は、所有者、管理者が自らの責任で処理するものですが、対応できない場合や著しい生活環境の悪化と放置に対しては市と区の連携で助成する方法等を検討しています。

**議案第52号
沼田市建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律関係手数料条例の制定について
経済建設常任委員長報告**

本条例は、平成27年7月に公布された「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」、いわゆる「建築物省エネ法」の施行に伴い、建築物のエネルギー消費性能向上のための誘導的措置として、消費性能向上計画認定及び認定の審査に関する手数料を定めるものです。

審査の過程で各委員から「第5条、第6条に規定する還付や減免の特例要件」「公共的な施設であっても消費性能向上計画認定の申請が必要かどうか」「増改築時の届け出の必要性」「他都道府県との認定に係る手数料の比較」等の質疑があり、また「沼田市内における建築物エネルギー消費性能の向上に寄与できるような対応をしてもらいたい」などの意見がありました。

以上を踏まえ、認定の審査について適正に事務が遂行され、増加傾向にある建築物部門のエネルギー消費性能の向上に資することを望み、本条例の制定は妥当なものとし、「可決すべきものと」決定をした次第です。



旧沼田貯蓄銀行と生方記念文庫を一体とした図面

**議案第53号
旧沼田貯蓄銀行設置及び
管理条例の制定について
総務文教常任委員長報告**

本条例は、本年7月に完成予定の「群馬県指定重要文化財旧沼田貯蓄銀行の移転復元建築工事完了に伴い、地方自治法の規定に基づく設置及び管理に必要

な事項を本条例により定めるものであります。また、この条例では、経過も踏まえ教育文化施設としての旧沼田貯蓄銀行を、街なかの「にぎわいの核」施設として、活用しながら保存をしていくことが求められています。

審査の過程で各委員から、「主に市民・住民の為の地域文化の

振興への配慮から、利用制限も緩やかな市民利用を促すことと、主に市外来訪者を含めた観覧者への配慮のバランスの検討」や、「夜間利用者への利用上の配慮」、「都市観光の活性化も視野に入れ、関係各課との連携による活用」、「現在展開されている真田丸展と連携をし、回遊できるように」などの意見がありました。

以上を踏まえ、今後立ち上げの旧沼田貯蓄銀行管理運営検討委員会と協議しながら、街なかのにぎわい再生の一助として、また、市民の使用に当たっては、その用途についての利便性の向上を図るとともに、生方記念文庫との一体とした公開と活用、文化的教養の向上を図られることから、本条例の制定は妥当なものとし、「可決すべきものと」決定いたしました次第です。

**旧沼田貯蓄銀行
設置及び管理条例**

以下概要抜粋

(設置)

第2条 本市は、市民の文化的教養の向上を図り、地域文化の振興に資するため、旧沼田貯蓄銀行を設置する。

(開館時間)

第5条 旧沼田貯蓄銀行の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、教育委員会が特に必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(休館日)

第6条 …(略)…水曜日及び国民の祝日の翌日。年末年始。

(観覧料)

第7条 観覧料は無料とする。

(施設の使用)

第8条 教育委員会は次に掲げる事業に限り、旧沼田貯蓄銀行の施設の一部又は全部を使用させることができる。

- (1) 市又は教育委員会が主催し、又は共催する事業
- (2) 国、地方公共団体若しくはその他公共団体又は公共団体が実施する事業
- (3) その他教育委員会が適当と認める事業

2項 施設を使用しようとする者は、あらかじめ教育委員会に申請し、使用の許可を受けなければならない。

(使用料)

第9条 前条第2項の規定により使用の許可を受けた者は、別表(7ページ掲載)に掲げる使用料を納付しなければならない。

旧沼田貯蓄銀行使用料〔別表（第9条）〕

施設区分		使用料	
部屋名	定員	午前	午後
1階営業室		430円	540円
1階事務室	6人	320円	430円
2階広間	21人	540円	640円
2階店長室	8人	320円	430円
2階和室	8人	320円	430円

注1 午前とは、午前9時30分から正午までを、午後とは、午後1時から午後5時までをいう。

注2 開館時間以外に使用する場合は、右記使用料における午前と午後を加算して得た額の2倍の額とする。

注3 休館日に使用する場合は、使用料は、右記使用料の2倍の額とする。

注4 1階営業室は、原則として展示目的で使用する場合に限る。

議案第57号 沼田市特別会計条例の一部を改正する条例について

議案第58号 平成28年度沼田市電気事業特別会計予算

民生福祉常任委員長報告

議案第57号沼田市特別会計条例の一部を改正する条例については、沼田市太陽光発電事業の実施にあたり、電気事業法に基づき、沼田市特別会計に新たに電気事業特別会計を加え、また、議案第58号平成28年度沼田市電気事業特別会計予算については、再生可能エネルギーの固定価格買取制度を利用し、佐山町及び利根町多那の市内2カ所の未利用市有地において太陽光発電事業を行うにあたり、歳入歳出それぞれ1億5,536万1,000円を電気事業特別会計として、予算計上するものです。

審査の過程で委員から、市有地における太陽光発電を行うことにより、市有地の有効利用に資すると考え、「利活用がされていない市有地を活用し、円滑な太陽光発電事業が推進できるよう心掛けていただきたい」と

議案第57号 沼田市特別会計条例の一部を改正する条例について

議案第58号 平成28年度沼田市電気事業特別会計予算

民生福祉常任委員長報告

議案第57号沼田市特別会計条例の一部を改正する条例については、沼田市太陽光発電事業の実施にあたり、電気事業法に基づき、沼田市特別会計に新たに電気事業特別会計を加え、また、議案第58号平成28年度沼田市電気事業特別会計予算については、再生可能エネルギーの固定価格買取制度を利用し、佐山町及び利根町多那の市内2カ所の未利用市有地において太陽光発電事業を行うにあたり、歳入歳出それぞれ1億5,536万1,000円を電気事業特別会計として、予算計上するものです。

審査の過程で委員から、市有地における太陽光発電を行うことにより、市有地の有効利用に資すると考え、「利活用がされていない市有地を活用し、円滑な太陽光発電事業が推進できるよう心掛けていただきたい」と



佐山町の太陽光発電施設建設場所

いう太陽光発電事業推進について賛同する意見や、一方「太陽光発電事業の推進については賛成であるが、未利用市有地の活用については、地元の意見を聴取し検討すべきではなかったのか」という意見もありました。

平成24年7月より電気事業者による再生エネルギー固定買取制度が設けられ、発電及び発電事業を背景に、地域が主体となる再生可能エネルギー事業が広く求められ、本市においても、市の役割として、太陽光発電の再生可能エネルギーの率先導入を望み、賛成多数により、原案の通り「可決すべきもの」と決定した次第です。

歳出（項） 1 事業費

平成28年度電気事業特別会計予算

（単位：千円）

目	本年度	財源内訳			一般財源	節		説明
		特定財源				区分	金額	
		国庫支出金	地方債	その他				
1 太陽光発電事業費	154,860		146,800		8,060	13委託料 15工事請負費 19負担金、補助及び交付金	432 146,880 7,548	○太陽光発電施設整備事業 13自家用電気工作物管理業務委託料 15施設整備工事 19東京電力系統連系工事負担金
計	154,860		146,800		8,060		154,860	

● 東京都町田市
【調査項目1】 議会改革の取り組み経過及び議会改革の現状と課題について

□ 町田市議会議会改革の取り組み

1. 傍聴規則の傍聴人受付簿の廃止

本会議傍聴規則及び委員会傍聴規則の傍聴人受付簿を廃止し、傍聴券の交付のみとし、傍聴者が傍聴に来やすくまた、傍聴者の個人情報保護にも配慮するようにした。

2. 全員協議会、議案説明会の公開

全員協議会、議案説明会を原則公開とした。



町田市議会議場にて

議会改革特別委員会
行政調査報告概要
平成28年2月5日

3. 手話通訳者の派遣
手話通訳を必要とする傍聴者がいる場合は、手話通訳者の派遣を依頼することとした。

4. 請願書提出の押印廃止

5. インターネットによる議会中継の開始(平成15年12月から)

6. 各常任委員会による市民団体等との懇談会を活性化させる。

7. 新庁舎より、本会議場において電子表決を実施

電子表決ボタンは賛成と反対の2個とし、棄権は設置しないと決定した。

8. 新庁舎より、常任・特別委員会のインターネット中継を行うことを決定

9. 全新人職員に、本会議の傍聴研修実施

10. 市庁内ワンストップナビでの本会議生中継の開始と、傍聴を促す庁内放送の開始

【調査項目2】今後の取り組みについて
1. タブレットの議会導入について

「議会としては、平成28年6月にタブレットを配付、9月議会で試行、12月議会で本稼働の方向で決定する。また、議員及び職員の本会議、委員会へのパソコンの持ち込みについては、

9月議会でタブレット端末の試行時に、外部との接続を行うことを試行していく。」を議会運営委員会で決定し本会議で報告した。

2. 決算認定について

特別委員会ではなく各常任委員会で審査する。(平成28年度試行)

3. 手話通訳者の派遣を予算計上する。(平成28年度から)

町田市議会事務局との質疑・応答

質疑趣旨

平成15年度からインターネットによる議会中継、また、平成24年の新庁舎移転にあわせ、議会中継のほか、常任委員会・特別委員会などの委員会においてもインターネットによる中継を開始されるなど、先進的な取り組みを行っていると思いますが、これに対して市民の評価などについて調査をしたことはございますか。

また、市民からは、どのような声が上がっているのでしょうか。

本市において、インターネットによる議会中継はまだ始めておらず、取り組んで欲しいと思っております。

インターネット中継による効果について、教えていただきたい。

回答趣旨

生中継ですと、進行状況がよくわかります。

また、審査順序のほうもホームページにアップしておりますので、何番目に自分達が提出した請願が審査されそうかなど、進行具合の確認ができるということもあります。

また、生中継のほか、24時間後にアップするようにしておりますので、お勤めの方等で実際には議会に來られないけれども、録画中継でわりと早めにやりとりを確認することができるといことが大きいことだと思っております。

議会からお知らせ

ホームページのリニューアルにあわせ、会議録が検索できるようにしました。

「開かれた議会の実現に向けて、沼田市議会「会議録」の検索システムを導入いたしました。

年ごとの検索はもちろん、キーワードや発言者でも簡単に検索ができるようになります。

また、各種のデータもダウンロードが可能となります。便利で身近になった「市議会」を是非一度ご覧下さい。



電子表決パネル版



会議録検索画面



会議録検索トップ画面

編集後記

大河ドラマ「真田丸」放映の影響で、全国から利根沼田に観光される方が増えています。沼田市のホームページもリニューアルされ、今後も観光客の増加が想定されます。

また、今年も京都・祇園祭の流れを汲む「沼田まつり」が行われ、多くの方が山車(まんど)や御輿に参加し、人も20万人を超えると思われま。是非おもてなしの心で迎えたいと思います。

最近の度重なる自然災害の影響から、本市においても防災意識が高まっています。6月市議会定例会では3名の議員が一般質問を行っています。

沼田市防災マップでは片品川左岸断層による地震の地表分布図も掲載されました。自助・共助・公助と防災意識の更なる高まりが、安心安全なまちづくりに必ず繋がると思います。

議会としても、防災・人口減少・地域経済縮小等の問題について、先送りすることなく真摯に取り組みでまいりたいと思っております。

編集副委員長 林 清史